

# あいち病害虫情報 最新情報

令和3年5月17日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 梅雨入りは平年より21日早い

東海地方は5月16日ごろに梅雨入りしたとみられます。5月13日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の天候は、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されています。

## ムギ類の病害

5月上旬の調査で、赤かび病の発生は過去10年間で最も多い状況です。赤かび病の発病穂が目立つほ場では、第2次伝染を防ぐため、降雨後に早急に防除を行いましょう。薬剤等の詳細は本日発表の「ムギ類赤かび病情報第3号」を参照してください。また、赤かび病の発生が多かった地域では、次作に向けて防除方法等について検討しましょう。

## イネの病害

イネいもち病は、気温が16～25℃で湿潤条件が続くと発生しやすくなります。東海地方は5月16日ごろ梅雨入りしたとみられるため、平年より早くイネいもち病の感染好適日が発生する恐れがあります。今後の気象状況に注意してください。

## 果樹の病害

果樹の病害の多くは、この時期、降雨のたびに病原菌が飛散し、感染を拡大していきます。降雨予想やほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

モモせん孔細菌病は、近年、発生量が増加傾向にあり、病原菌の越冬量が多いと推測されます。本病は、枝病斑から出る病原細菌が、風を伴う降雨により周囲に広がり、感染が拡大します。昨年、発生が多かった場所を中心に注意深く観察し、枝病斑は見つけ次第除去しましょう。

ナシ黒星病は、葉が柔らかい時期や幼果期が感染しやすい時期です。発病葉や発病果は伝染源になるため、見つけ次第除去しましょう。また、多発してからでは、薬剤散布の効果が劣るので、早期防除を心がけましょう。

ブドウ黒とう病は、梅雨明けまで降雨のたびに、発病部位や棚に残っている被害枝等から分生子が飛散し感染が拡大するため、防除を実施しましょう。シャインマスカットは巨峰と比べ本病に弱いので、特に防除を徹底しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。適期を逃さないように防除を徹底しましょう。

ブドウべと病は、昨年の発生量がやや多い状況であったため、病原菌の越冬量が多いと推測されます。この時期の風雨により一次伝染が心配されますので防除を実施しましょう。

## 果樹の害虫

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第1世代1齢幼虫発生ピーク時です。本日発表の「ナシマルカイガラムシ情報第1号」及び「フジコナカイガラムシ情報第1号」に記載のピーク予測日を参考にしてください。

果樹を加害するカメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシが、予察灯及びフェロモントラップで誘殺され始めました。気温が20℃以上の風がない夜は果樹カメムシ類の行動が活発になり、果樹園へ飛来するおそれがあります。今後の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考（下記ホームページを参照）にするとともに、ほ場を見回り、飛来を確認したら防除を実施しましょう。特に、越冬場所に近い山間部や例年被害が多い園では、飛来状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマは、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。現時点における成虫発生ピーク予測日は下表のとおりです。粘着板トラップ調査では、一部の地域の誘殺数が多くなっています。今後もトラップでの誘殺状況やピーク予測日など、防除に関する情報を提供する予定ですので、情報を参考に適期に防除しましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（令和3年5月17日計算）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/18	5/14	5/12	5/11	5/15	5/16	5/11	5/13	5/17	5/12	6/11
第2世代	6/15	6/14	6/9	6/7	6/15	6/14	6/10	6/9	6/16	6/12	7/10
（前年）	6/15	6/14	6/11	6/11	6/15	6/16	6/13	6/14	6/17	6/13	6/9※
前年差	±0	±0	2日早	4日早	±0	2日早	3日早	5日早	1日早	1日早	2日遅※

注）アメダス平均気温から予測。5月16日までは本年実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値）を用いて計算。前年は、前年気温の実測値を用いて計算。※稲武については第1世代の前年ピーク日と前年差

## オオタバコガの発生が多い！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、県内各地のいずれの調査地点でも多い状況となっています。5月第1半旬及び第2半旬の累積誘殺数は平年の3.1～14.9倍となっており、次世代幼虫の発生量が多くなると考えられ、注意が必要です。

## キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。オオタバコガの発生が多い状況です。生長点付近や花蕾が食害されるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/>）を参照してください。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
  - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
  - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
  - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
  - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820